



患者満足度調査

医療支援課

香川大学医学部附属病院では、地域の皆様に信頼され、安全で満足いただける医療の提供を目指しております。今後の病院運営の参考とし、患者さんに対するサービス等の充実のためにアンケート調査を、平成29年12月に実施いたしました。外来患者さん623名、入院患者さん188名から回答をいただきました。「施設・整備」、「病院職員の言葉遣い・態度」、「診療」、「病棟病室」について、非常に満足(5点)、満足(4点)、ふつう(3点)、やや不満(2点)、不満(1点)を選んでいただき、質問全体の平均点は3.64点でした。

当院を選んでいただいた理由は、外来患者さん・入院患者さんとも「他の医療機関からの紹介」が一番多く、次いで「以前から通っている」、「医療水準が高い」を理由にあげて下さり、約75%の患者さんが知人等に当院を紹介や推薦してもよいとお考えでした。100点満点での評価は外来患者さん83点、入院患者さん88点の評価を頂きました。

「感謝・お褒めの言葉」を頂き、職員一同大変うれしく思っています。また、同時に頂きました多くの「ご意見・ご要望」についても真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでいきたいと思います。

職員一同、さらに質の高い医療をお届けできるように努力して参ります。

第1回香川MPA(問題患者等対応検討会)を開催

医療支援課



1月19日(金)に、本学研究交流棟研究者交流スペースにおいて、第1回香川MPA(問題患者等対応検討会)を開催しました。本検討会は、各医療機関において、日常の業務の中で問題患者等の対応にあたる者が、改善策・解決策を協議し、適切な対応力を身につけ、解決する方策を見いだす力を備えることにより、各医療機関が本来の目的である、患者さんへの安全で安心できる医療の提供を達成することに繋げることを目的に、会長として医学部

白川事務部長、事務局を医学部医療支援課に置いて設立しました。

検討会には香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院等香川県下の12医療機関で患者対応を担当している病院職員23名及び森脇法律事務所から弁護士6名の29名が参加して行われました。森脇法律事務所から「問題患者対応に関する法的検討」の発表があり、法的に対応した事例の紹介がありました。また、香川大学医学部附属病院から対応事例の発表が行われ、トラブルの対処法等について各医療機関での活発な質問及び意見交換が行われました。

今後3か月に1回程度開催し、各医療機関での対応事例を発表検討していくことにしています。各医療機関において本検討会において協議検討した問題患者等の対応方法を蓄積し、患者さんに安全で安心して医療を受けられる環境作りを推進していきたいと考えています。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群とは？

周産期科女性診療科 助教 田中 圭紀

日本人女性において最も多いがんは乳がんであり、生涯で12人に1人が罹患するといわれていますが、その発症に遺伝が関係している場合があることをご存知でしょうか。

遺伝的要因により次世代に継承していくがんを遺伝性腫瘍といいます。遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)もその1つで、BRCA1もしくはBRCA2遺伝子のいずれかの変異が原因で乳がんや卵巣がん、他にも膵臓がん、前立腺がんなどに罹患しやすくなることがわかっています。

私たちはほとんどの遺伝子を2つ1組で持っており、父親から1つ、母親から1つ受け継いでいます。親のどちらかが病的変異のあるBRCA1/2遺伝子を持っている場合、その変異が子に受け継がれる確率は1/2(50%)です。BRCA1/2遺伝子変異保持者が生涯で乳がん罹患する可能性は41~90%(一般集団の罹患率は約8%)、卵巣がん罹患する可能性は8~62%(一般集団の罹患率は約1%)であるとの報告があり、乳がんや卵巣がんが高率に発症するといわれています。

また、全ての乳がんの5~10%、卵巣がんの約10~15%にBRCA1/2変異が認められることがわかってきました。若年発症、多発発生(両側性や何度も繰り返す場合)、男性乳がん、ご自身以外にも家系内に乳がん・卵巣がん罹患者を有する、などの項目に当てはまる方はHBOCの可能性があるとと言えます。

遺伝子変異の有無については遺伝学的検査を行って調べますが、検査を受けるかどうかは遺伝カウンセリングを受けた上で、メリット・デメリットを天秤に掛けて慎重に決定されることをお勧めします。検査はまず発症者から行い、変異がみられた場合は未発症血縁者の検査も行うことができます。

HBOCと判明した場合、まだ罹患していない臓器の検診(サーベイランスといいます)を受けることや、予防的に乳房や卵巣を切除するリスク低減手術を選択することでがん罹患および死亡を確実に減らすことができることが明らかになっています。また、変異遺伝子の機能をターゲットにして作られた治療薬の臨床導入も進んできており、今後ますますHBOC診療は進歩していくことが期待されています。

毎日新聞 「四国健康ナビ」H29.10.17掲載

K-MIXで活用しているTV会議システムを用いた海外在住日本人の健康相談

循環器・腎臓・脳卒中内科学 南野 哲男

香川県では、2003年に日本初の全県規模となる「かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」の運用を開始し、2011年には医療福祉総合特区に指定され、ICTを活用した遠隔医療が実践されています。近年、K-MIXに高品質のクラウド型Web会議(ウェブ会議)(V-CUBE)が可能となりました。香川大学医学部附属病院では、日本最大級のICTであるK-MIXを活用して、アジア・欧州における遠隔医療推進チームと連携して、外国人・海外滞在日本人を対象として、有料の遠隔医療相談を実践するとともに、医療インバウンドを促進することを目指しています。

香港の医療機関とK-MIXで活用しているTV会議システムを用いて医療相談を実施しており平成30年1月、欧州日本人医師会会長(ロンドン医療センター香港診療所所長)である伊原鉄二郎医師の香港診療所と香川大学医学部附属病院を連携し、香港在住日本人の遠隔医療相談を行いました。

その結果、画像は大変明瞭であり、面談の実施に全く支障がなく、K-MIXと同時に運用することにより、画像検査結果や心電図結果も参照しながら、遠隔医療相談が可能になると思われました。

また、現地の専門医を受診した際には、欧米のエビデンスに基づいた治療が行われており、日本人にとって、必ずしも最適な治療が行われていないことが判明しました。

健康相談とは別の患者で、入院精査が必要な患者の紹介を受けました。それにより香港-高松の直行便があるため、本人は香川で入院精査を行うことに前向きであることが分かりました。

課題としてはWEB画像では診察(視診)がやや困難であること、遠隔医療相談は、診察時間が長く、コスト設定が課題として残りました。

今後の展望として

- ① K-MIX(WEB画像も含む)を用いたアジア・欧州の医療機関を連携促進
 - ② 在外邦人のみではなく、外国人を対象とした有料の遠隔医療相談の実施
 - ③ 複数の診療科による遠隔医療相談の実施
 - ④ 欧州、アジアの医療機関との連携による医療インバウンドの促進
- に取り組んでいきたいと思えます。

四国新聞社の記事転載について、ホームページでの公開には
許諾されていないため、転載記事を除きました。

四国新聞 2017年(平成29年)9月15日(金曜日)掲載 (四国新聞に転載について許諾済み)



高松市内で定期的に行っている医療セミナー「イキイキさぬき健康塾」がケーブルメディア四国のコミュニティチャンネルで放送中です。実際にセミナーにご参加いただいた方の振り返りに、セミナー当日に参加できなかった方に、医療セミナーに興味のある方に、皆様ぜひご覧ください。

平成30年度新研修医をよろしくお願いいたします!

卒後臨床研修センター

今春、医科29名、歯科2名の新研修医を本院に迎えました。

今年度も、新研修医オリエンテーションを5日間実施しました。オリエンテーションでは、医師としての心得をはじめ、医療安全、メンタルヘルスを含めた働き方に関する講義などを受講し、採血実習・救命救急処置講習等の実習に積極的に取り組む姿がみられました。病棟での研修開始後は、不安と緊張感を抱きながらも、指導医の指導の下、医師としての責任感を持ち修練に励んでいます。



香川大学医学部附属病院 平成30年度新採用研修医

本院を受診される患者さんならびにご家族におかれましては、大学病院としての使命である医師育成へのご理解とご協力をお願いする次第です。研修医達の成長を温かく見守って下さいますようお願い申し上げます。

県民の方々、医療機関のニーズに応える為に、将来の県内の地域医療を支える医師育成を目ざし、一層の努力を継続して参ります。今後とも、医師育成へのご支援の程、よろしくお願いいたします。

フレッシュ看護職員

看護部

平成30年度新採用看護職員は58名です。3つのHを備え自律した看護師を目指します。それぞれ配属部署の先輩看護師からたくさんの指導を受けています。看護の仕事に自信を持つことができるよう、仲間達と一緒に頑張っていきます。ご指導の程どうぞよろしくお願いいたします。



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長 医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H30.5~6月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
5/10 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:未定 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
5/13 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「糖尿病の眼合併症」	総務課	(087)891-2008
5/31 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:未定 薬剤師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
6/10 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「おしっこが近い、漏れる、出にくい-スバツと解決-」	総務課	(087)891-2008
6/14 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:未定 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
6/28 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:未定 検査技師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、小野(総務)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、田川(管理)、田中(看護)、濱本(外来)、
藤原(病棟)、芳地(薬剤)、横井(情報)、横山(経営)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]